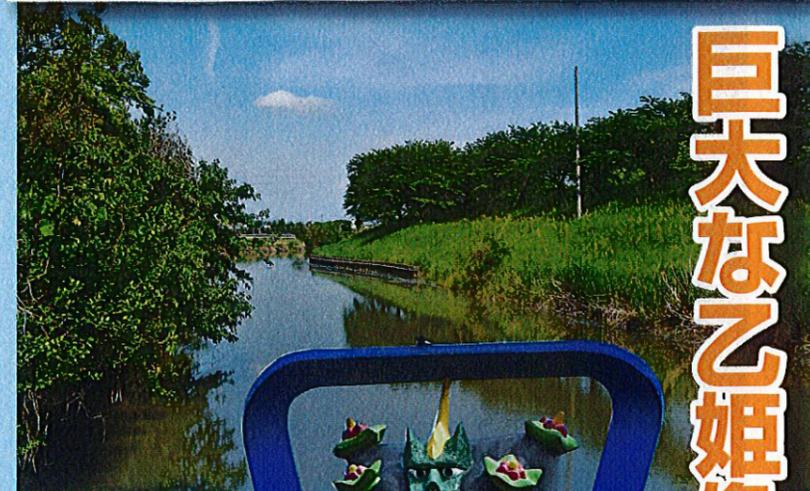


観光スポット B級 Report!

岐阜県安八郡輪之内町 乙姫公園・乙姫稻荷神社

巨大な乙姫像に込められた願い



▲現在の大樽川灯明測付近

▶高さ10.4mの巨大な乙姫像が大樽川の灯明測近くに立っています。

◀浦島太郎像が乙姫像と見つめ合うように設置されています。

久しぶりのB級観光スポットは、強烈なインパクトを放つコンクリート製の塑像が並ぶ乙姫公園と乙姫稻荷神社です。
こちらをご紹介します。西濃地方南部の歴史に触れてみたいと思います。

水との戦いが、そのまま歴史

輪之内町がある安八郡の安八の名は、大宝2年(702年)の文獻には「美濃国味蜂間郡春部里」と記



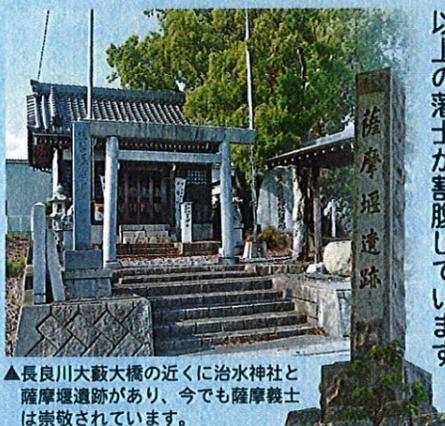
▲乙姫稻荷入口には69本の赤鳥居が続いています。

藩に改修工事を命じました。大名と言えど当時の薩摩藩は既に66万両の借財があり、この上に改修工費がのしかかってきました。難工事の連続であったことは勿論ですが、関ヶ原合戦の遺恨もあったのか幕府の「薩摩いじめ」とも

されています。味とは味鴨、蜂とは泊間は場所を表しています。鴨が入江に泊まっている場所という意味です。現在では河口から35km程内陸の輪之内町は伊勢湾の入江だったのです。

事実、昭和60年(1985年)の長良川に架かる大藪大橋の橋台工事では川底30mより力キ殻が出土しています。縄文時代の海岸線は現在の大垣市墨俣町まで上流だったと言われています。

この低地に木曾・長良・揖斐の三川が流れ込んでいる西濃南部では川は蛇行し、時にすべてを押し流れる事態が多発し、当初の予算を遥かに超えた40万両がかかったと言われています。工事後、後総責任者だった家老平田鞠負と80名以上の藩士が割腹しています。



▲長良川大藪大橋の近くに治水神社と薩摩塚遺跡があり、今でも薩摩武士は崇敬されています。

内陸の地に竜宮伝説...

むかし、嘉助と言う魚獲り名人の若者がいました。ある時、大樽川の灯明測で投網を打ち魚を獲ろうとした時、川底に引き込まれ竜宮にたどり着きました。そこで乙姫に出会い、ここには、もう来ないと約束をし、地上に戻る事ができました。こんなむかし話が伝わっています。
この地が海辺であった名残では

▶公園と稻荷神社の境内には巨大な鶴の像や白馬群像が多数あります。



し、寄り集まり流れていました。先人の苦難は測り知れません。

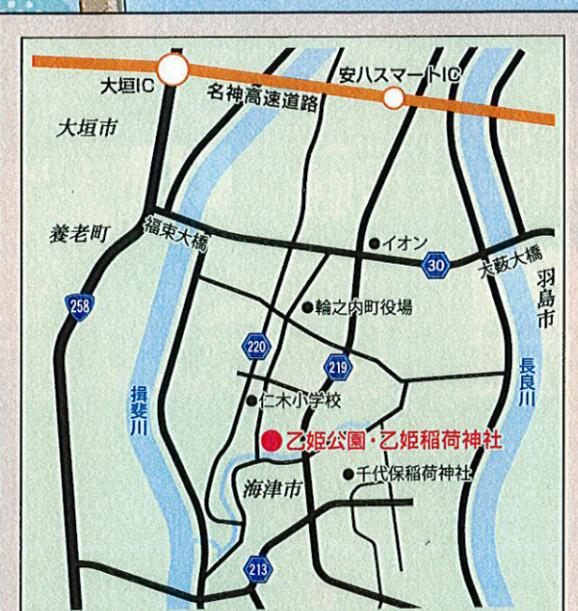
宝暦の治水工事

江戸時代中期 宝暦3年(1753年)江戸幕府は遠国の外様大名薩摩江戸時代の中期 宝暦3年(1753年)江戸幕府は遠国の外様大名薩摩



◀このポストに投函すると乙姫様から返信があります。

今では安全な生活を送っている私たちですが、「災害は忘れたところにやってくる」と言う言葉もありません。先人たちの苦難と水の恵みと怖さを忘れないようにと願いが込められているような公園です。
突然の取材にも快く応じていただいた株式会社日八工業会長牧野匡成さんと、資料を提供いただいた輪之内町教育委員会に感謝申し上げます。ありがとうございました。



乙姫公園・乙姫稻荷神社

岐阜県安八郡輪之内町海松新田1089
見学は自由・入場無料
※個人の所有地につき、マナーを守り静かに見学してください。